

シラバス参照

授業科目名	健康保育A(保育現場での子どもの病気)
単位数	2
授業形態	講義
講義コード	5758
授業担当者氏名	高見澤勝(タカミザワ マサル) 宮島祐(ミヤジマ タスク)

授業の到達目標 (ディプロマポリシーとの関連)	(1)自ら訴えることの少ない子どもの異変に早く気づいてあげられるよう病気の知識を身につける。(DP1) (2)気づいた症状から、病態、疾患を推定できる。(DP1, DP4) (3)各病態に応じた適切な対応ができる。(DP9)	
授業概要	(1)講義ごとに家庭や保育所などでよくみられる子どもの症状を設定し、どのような疾患、病態を推定するか、どう対応するかグループワークを行い発表を行う。 (2)質疑応答後に講義を行い確認テストをしてさらに解説する。	
教育課程内の位置づけ	子ども支援学科 専門教育科目 健康保育科目 3年 選択科目	
授業におけるアクティブな特徴	特徴	該当
	A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり	-
	B: 課題解決型(PBL)連携なし	-
	C: 討議(ディスカッション、ディベート等)	○
	D: グループワーク	○
	E: プレゼンテーション	○
	F: 実習、フィールドワーク	-
	G: 双方向授業(ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)	○
	H: 双方向授業(ICT活用あり: クリッカー、manaba等)	○
	I: 反転授業	-
	J: 外国語のみで行われる授業	-
K: オープンな教育リソース(JMOOC・edX・Coursera等)を利用した授業		
実施形態	対面授業科目	
実施形態について	<p>※本学では、授業科目を以下のとおり分類しています。</p> <p>対面授業科目：授業回数の全部あるいは授業回数の半数以上を対面で行う授業科目 メディア授業科目：上記「対面授業科目」以外で、主にメディアで行う授業科目 ※上記実施形態と異なる授業回がある場合は、以下「授業計画」欄に記載しています。 ※新型コロナウイルス感染症の状況により、変更となる可能性があります。 変更の場合はmanaba等で連絡します。</p>	
授業計画	第1回	健康状態の把握
	第2回	なんとなく元気がない。食欲がない。機嫌が悪い。
	第3回	咳が止まらない。ゼーゼーしている。鼻汁、鼻閉がある。いびきが強い。
	第4回	嘔吐がある。下痢・腹痛がある。
	第5回	皮膚に発疹がある。 口が痛い。喉が痛い。
	第6回	食事中、食後に紅斑がある。痒がっている。
	第7回	事故が起きた。けがをした。

	<table border="1"> <tr> <td>第8回</td> <td>イライラしている。乱暴な言葉遣い。</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>座ってられない。道路の飛び出し。</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>こだわりが強い。みんなと一緒に遊べない。</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>不器用。食べ物の好き嫌いが激しい。</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>ぼーっとしていて、ピクピクする。</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>顔が悪い、少し運動すると息が荒い。</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>顔がむくんでいる。尿の色がおかしい。 子どもの行動観察の総括。</td> </tr> </table>	第8回	イライラしている。乱暴な言葉遣い。	第9回	座ってられない。道路の飛び出し。	第10回	こだわりが強い。みんなと一緒に遊べない。	第11回	不器用。食べ物の好き嫌いが激しい。	第12回	ぼーっとしていて、ピクピクする。	第13回	顔が悪い、少し運動すると息が荒い。	第14回	顔がむくんでいる。尿の色がおかしい。 子どもの行動観察の総括。
第8回	イライラしている。乱暴な言葉遣い。														
第9回	座ってられない。道路の飛び出し。														
第10回	こだわりが強い。みんなと一緒に遊べない。														
第11回	不器用。食べ物の好き嫌いが激しい。														
第12回	ぼーっとしていて、ピクピクする。														
第13回	顔が悪い、少し運動すると息が荒い。														
第14回	顔がむくんでいる。尿の色がおかしい。 子どもの行動観察の総括。														
授業外学修 予習(事前学修)	<table border="1"> <tr> <td>各授業</td> <td rowspan="2">小児の感染症と免疫学及び健康保育総論の復習。 子どもの保健Iの復習。</td> </tr> <tr> <td>[平均100分]</td> </tr> </table>	各授業	小児の感染症と免疫学及び健康保育総論の復習。 子どもの保健Iの復習。	[平均100分]											
各授業	小児の感染症と免疫学及び健康保育総論の復習。 子どもの保健Iの復習。														
[平均100分]															
授業外学修 復習(事後学修)	<table border="1"> <tr> <td>各授業</td> <td rowspan="2">確認テスト、講義資料の復習</td> </tr> <tr> <td>[平均100分]</td> </tr> </table>	各授業	確認テスト、講義資料の復習	[平均100分]											
各授業	確認テスト、講義資料の復習														
[平均100分]															
評価方法	授業課題 40% 前期課題レポート60%														
教科書等	<p>参考書 テキスト 子どもの病気(監修:早川浩、小林昭夫)日本小児医事出版社 子どもの病気 理解と接しかた(編著:岩田 力、近喰ふじ子)医学出版社 子どもの保健 健康と安全(編著:岩田 力、細井 香)光生館</p>														
課題に対するフ ィードバックの 方法	講義内で課題の解答、解説														
その他	適宜、視聴覚教材を用いる。														
授業担当者の 実務経験の有 無	実務経験あり														
「授業担当者の 実務経験の内 容」および「実 務経験を活かし た授業内容」	<p>高見澤勝:大学病院、一般病院、小児専門病院での医師としての勤務経験に基づいて、保育現場で遭遇する頻度の高い疾患について具体的に どう対応すべきかを解説してゆく。 宮島 祐:大学病院で41年間小児科専門医、小児神経専門医、子どもの心専門医などの専門診療経験を生かし、グループワークなどを活用して 子どもから言葉での訴え以外に、表情や行動など様々なサインを観察する感性を磨き、的確な対応する力を修得できるように解説していく。</p>														
ファイル															